

いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第53号
(平成25年12月1日号)
岩手県

復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。震災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

だんだんと寒さを感じる日が増え、本格的な冬の訪れを感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します。

「宮古・下閉伊管内 復興の現場見学会」が開催されました 宮古市

11月27日(水)、宮古市で「宮古・下閉伊管内 復興の現場見学会(主催:岩手県)」が開催されました。

この見学会は、東日本大震災津波で被災した現場の復興状況を住民に理解してもらうことを目的としたもの。近隣住民18名が参加し、4ヶ所の現場を見学しました。

摂待地区(農地の災害復旧)

摂待(せったい)地区では、被災した面積約20ヘクタール(サッカーグラウンド28個分に相当)の農地の現状を見学。復旧のための区画整理を終えた農地では、震災後初の田植えが行われ、稲刈りも無事終了。地元農家も「田んぼが広くなり、働きやすくなった」と好評とのことでした。

残りの区画整理は、平成26年度完了予定です。

田老地区(田老漁港及び防潮堤)

田老(たろう)地区では、防潮堤の上から、田老漁港及び防潮堤の復興状況を見学。

田老漁港では、津波による防波堤の倒壊、地盤沈下等に対する復旧が進められていました。

また、甚大な被害を受けた田老地区の防潮堤(総延長2,433m)は、二重の防潮堤のうち、海側の第一線堤を、震災前の高さ海拔10mから14.7mにかさ上げ。陸側の第二線堤は、地盤沈下したものを海拔10mに原形復旧し、水門等の工事も実施予定。両線堤は、平成27年度末の工事完了を目指しています。

宮古地区災害廃棄物破碎・選別処理施設

宮古市磯鶏(そけい)の災害廃棄物処理施設を見学。可燃物の処理はほぼ完了。不燃物の処理や津波による土砂の堆積物の分類の難しさが課題とのことでした。

現在の処理進捗率は約80%。平成26年3月末の処理完了を目指しています。

宮古港神林マリーナ

平成28年に開催される「いわて国体」のセーリング競技会場となる「神林(かんばやし)マリーナ」では、地盤沈下した土地のかさ上げの様子等を見学。

現時点の工事進捗率は、約30%。県営施設の「リアスハーバー」は平成25年度内に、防潮堤は平成27年度末に完成予定。「いわて国体」開催へ向け、着々と復旧工事が進められている様子でした。



田老地区防潮堤の現場見学



宮古地区災害廃棄物処理の様子

『いわて復興インデックス報告書(第8回)』のデータから

沿岸被災12市町村を中心とした県の復旧、復興の現状や、その推移を把握するためのデータを定期的に取りまとめている「いわて復興インデックス報告書」。今回は第8回(平成25年10月末時点)結果から、主なデータを紹介します。

沿岸部の人口(平成25年10月1日現在)

▶沿岸部の人口:252,780人

(平成23年3月1日現在:272,937人)

震災前(平成23年3月1日現在)と比較すると、20,157人(7.4%)の減少。人口減少傾向は続いているが、減少幅は震災前の水準にまで戻っている。

がれき処理の進捗率(平成25年10月末時点)

▶進捗率82.7%(平成25年7月末時点:62.3%)

前回(7月末)時点より+106.8万トン増(進捗率+20.4ポイント)と、着実に処理が進んでいる。

主要観光地入込客数(平成25年7月から9月まで)

▶1,698,107人回

(平成24年7月~9月:1,774,261人回)

前年同期間比で4.3%減となったが、震災前との比較(平成22年同期間比)では14.9%増となっている。

詳細は [いわて復興インデックス 第8回](#) [検索](#)

いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員(個人)と応援団(法人及び団体)の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

登録無料

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

[いわて復興応援団](#)

[検索](#)

おでんそーれ沖縄デイが開催されました

山田町

11月22日(金)、山田町立山田南小学校の児童と、被災した子ども達を支援している沖縄県那覇市の医療機関の職員でつくるグループ「おでんそーれ」が交流会を開催しました。

平成24年2月に「おでんそーれ」が沖縄戦からの復興の象徴である、“カンカラ三線(胴部分が空き缶でできている三線)”を山田南小学校に贈り、元気づけたのがきっかけで、今回で3回目の交流会となりました。

“おでんそーれ”とは、山田町の方言で「おいでください」を意味する「おでんせ」と沖縄の方言で「おいでください」を意味する「めんそーれ」を組み合わせた造語です。互いに声を掛け合いながら、長い交流ができるようにと名付けられました。

今回の交流会では、岩手の言葉と沖縄の言葉による宮澤賢治の詩の朗読会や、身近なもので遊ぶ楽しさを知ってもらおうと、沖縄で自生している植物の葉を使った草笛や熱帯魚づくりを行いました。

子ども達は初めて体験する草遊びに悪戦苦闘しながらも、「作り方が難しかったけど、楽しかった」「近くにある草でも遊ぶ道具になることが分かった」など交流会を楽しんでいました。



全体交流会の様子①



全体交流会の様子②



草遊びの様子



熱帯魚が完成!

【いわて復興だより Web】12/1号 オリジナルニュース

- ◆ 八木澤商店が自社醸造のしょうゆを震災後初出荷(一関市)
- ◆ 全国生涯学習ネットワークフォーラム2013 岩手大会開催

<http://iwate-fukkoudayori.com> ◆◆◆ 近日更新予定 ◆◆◆

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第10回目は、今野 当さんを紹介します。

PROFILE

大船渡市出身。大学進学を機に県外へ。2006年、家業である民宿を継ごうと大船渡に戻り、民宿を手伝いながら海産物問屋で広報の仕事に従事。

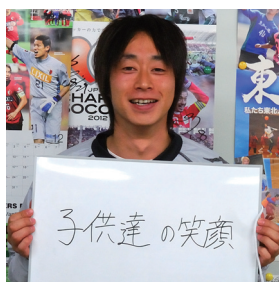
仕事のかたわら、震災後に遊び場をなくした子どもたちへ、自由に遊べる場所を提供しようと、「東北人魂を持つ」選手会の会(略称:東北人魂/発起人:鹿島アントラーズ・小笠原満男氏ほか)の全面協力の下、2012年3月10日に岩手グラウンドプロジェクトを立ち上げ、同年7月に法人化。現在、株式会社ヒト・コミュニケーションズ等の支援及び寄付金により活動を続けている。

子どもたちが遊べるグラウンドを作りたい

震災後、学校のグラウンドには応急仮設住宅などが建ち、子どもたちが遊べる場所がなくなりました。

未来の さんりく びと

一般社団法人 東北人魂
岩手グラウンドプロジェクト
代表理事 今野 当
(このん の あたる) さん



今野さんからのひと言:
子ども達の笑顔

「子どもが遊べる場所がないなんて、変じゃないですか」と今野さんは切り出します。仮設のわきで運動をすると「うるさい」「他の場所で行え」という言葉を多く耳にしたそうです。

復興の邪魔になりたくないと思いながらも、今野さんは「どこか運動できる場所はないですか」といろいろなところに声を掛け、2013年3月、赤崎小学校跡地にグラウンドを完成させました。

子どもたちの笑顔が大人の笑顔に

「子どもにとって1年、2年はものすごく大きい。震災から3年が経ち、発災時中学校に入学した子どもたちは卒業してしまう。その間、自分の学校のグラウンドで運動会ができないというのは、自分には考えられない」と今野さんは子どもたちを思いやります。

「グラウンドで遊ぶ子どもたちの笑顔を見れば、必然的に大人も笑顔になると思う。まちづくりには子どもたちの笑顔が欠かせません」と活気あるまちづくりへの想いを語りました。

岩手県の被害状況

平成25年10月31日現在

- ▶ 人的被害 死者(直接死): 4,672名 行方不明者: 1,144名
- ▶ 建物被害(住家のみ、全半壊) 25,023棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成25年10月31日現在

- ▶ 義援金受付状況 約178億5,943万円(87,052件)
- ▶ 寄付金受付状況 約186億2,150万円(6,307件)
- ▶ いわたの学び希望基金受付状況 約60億3,353万円(10,956件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第53号 平成25年12月1日 企画・発行: 岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷: シナプス